



オクラの栽培期間を通じてアブラムシ類への土着天敵利用を可能にする簡易技術

秋冬期に播種し春期に機能させる従来の天敵温存植物利用技術に代替可能なソバを活用した簡易な技術を開発

背景・目的

- ・天敵温存植物として、生育特性が異なる春期用の植物(ヘアリーベッチやハゼリソウ等)と夏期用のソルゴーを組み合わせることでオクラの栽培期間を通じて土着天敵の保護・強化技術が可能
- ・一方、春期用植物の播種時期は、オクラの作付け準備と重複する等の制約があるため、一般化にはより簡易な方法が必要

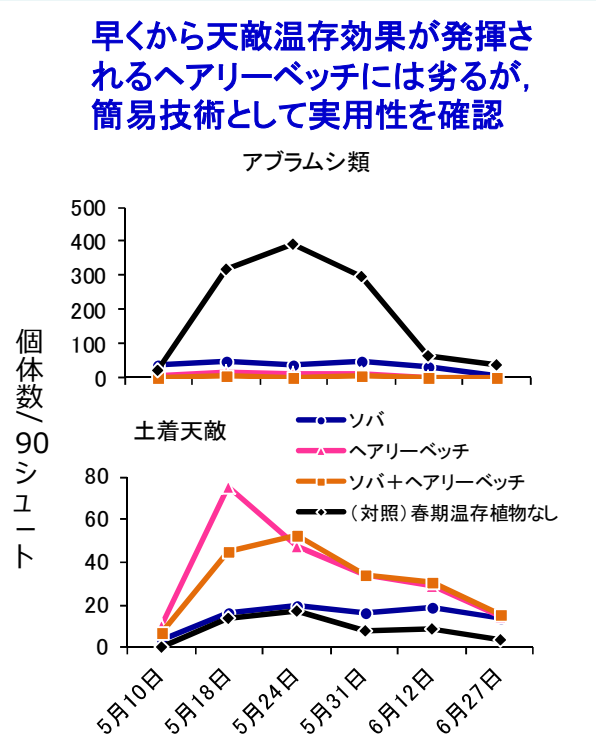
成果の内容

<p>理想型</p>  <p>ハゼリソウ</p> <p>ヘアリーベッチ</p> <p>効果は高いが、播種時期がオクラの作付け準備と重複する等の制約あり</p>	<p>簡易型</p>  <p>ソバ</p> <p>生育が早く、一定の天敵温存効果があるソバで代用</p>		
<p>播種時期</p> <p>12～2月</p>	<p>効果発現時期</p> <p>3～6月</p>	<p>播種時期</p> <p>4月</p>	<p>効果発現時期</p> <p>5～6月</p>

導入メリット

温存される土着天敵

植物	土着天敵の種類	
ヘアリーベッチ	ヒラタアブ類	テントウムシ類
	ヒメハナカメムシ類	アブラハチ類
	ソバ	
	ヒラタアブ類	ヒメハナカメムシ類



期待される効果

- ・オクラでの大幅な殺虫剤散布の削減を可能にする土着天敵の保護・強化法が簡便化
- ・より一般的な技術として天敵利用技術を主体としたIPMの普及を促進

普及対象・範囲
県内オクラ栽培農家